

➤ 「老眼鏡は格好悪い」のか、 「老眼鏡を使わないほうが格好悪い」のか

たいていの人は「老眼鏡を使っていることを人に知られて、『老いている』というイメージを抱かれたくない」という思いがあるようですが、老眼鏡を使わないほうが見た目に格好悪いものです。

老眼鏡といえば、レンズの中に「小窓」のついたバイフォーカル（二重焦点型レンズ）の眼鏡を思い浮かべる人は多いかもしれませんが。バイフォーカルレンズとは、遠視用のレンズの中に近くを見るとき用の度数に設定された「小窓」がある、遠近両用タイプのレンズです。レンズの上下がはっきり分かれているのが「老眼鏡は格好悪い」というイメージに結びついているようです。

しかし老眼鏡は、もとが正視の場合、近くの1点だけにピントを合わせるための「単焦点レンズ」を使います。これはバイフォーカルレンズのように、レンズが上下で分かれているわけではありません。また、遠視か近視であれば遠近両用タイプのレンズを使うことになりませんが、最近の主流はバイフォーカルレンズではなく累進多焦点レンズなので、傍目には老眼鏡とはわかりません。また、最近では老眼用をサポートするものとして、遠近両用のコンタクトレンズなんでものも売られています。「老眼鏡」の可能性は、どんどん広がっているのです。レンズの種類については、第2章でくわしく説明しましょう。

老眼鏡をかけずに頑張っている人の中には、新聞や本をわざと遠ざけて読んでいる人もいます。彼らは近くが見えづらいために、無理な姿勢でものを見ているのでしょう。老眼鏡を使えばそんな不便はありませんが、老眼に気づかない、もしくは認めようとしないうちに、傍目にも不自然な姿勢になっているのです。

鏡を見れば自分の「老眼姿勢」に気づく人もいるでしょうが、なかなか気づきにくいものです。しかし、こうした不自然な姿勢は、周りから見れば妙に目につくものです。

海外では老眼鏡のことを「Reading glass（読書眼鏡）」と呼びます。これは、眼の老化によって近くのものが見えにくくなり、読書時など、近距離にピントを合わせるときに使うことに由来します。「老眼」という日本語のイメージとはだいぶ異なります。ことに、若い世代にも老眼患者が増えたいまとなっては、「老眼鏡」「老眼」という表現は適さないように思います。ましてや、「老」という言葉が「老眼

鏡」に悪い印象を与え、正しい対処をとることを妨げているのであれば、「老眼」「老眼鏡」という言葉を変えらる必要があるのかもしれない。

また、老眼を放置すると眼精疲労を引き起こすことは先に述べました。眼精疲労も人の見た目に悪影響を及ぼします。